

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 15 日現在

機関番号：34431

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04895

研究課題名(和文) アクティブ・ラーニングを用いた道徳教材の開発と評価方法に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the Development and Assessment Methods of Morality Materials Using Active Learning

研究代表者

伊藤 利明 (ITO, TOSHIAKI)

関西福祉科学大学・健康福祉学部・教授

研究者番号：10191884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、アクティブ・ラーニングの方法を用いた中・高校生向けの道徳教材を開発し、その適切性を検討し、道徳性の変容をとらえるための評価方法を確立することである。「出生前診断」と「こうのとりのゆりかご」を題材にした道徳教材を開発し、道徳教材としての適切性を検討した。教育学と看護学の知見を活用して、読み物資料を創作し、大学生を対象に模擬授業を行い、道徳教材の適切性を確認した。

また、「評価シート」を作成し、模擬授業やディベートの視聴の前後における道徳性の変容を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、教育学と看護学の知見を活用し、「出生前診断」と「こうのとりのゆりかご」を道徳教材として開発し、評価シートを作成したことである。「生命の尊厳」を題材にして、「考え、議論する道徳」を構築するためには、答えが一つではない、現代的な問題を取り上げることが必要である。

本研究の社会的意義は、読み物資料と評価シートおよび学習指導案が、中・高校の道徳科や総合的な学習(探究)の時間で容易に実践できることである。自分が主人公の立場ならどうするのかを考えたり、グループ・ディスカッションで意見を交換したりすることは、主体的・対話的で深い学びを実践することになる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the study is to develop morality materials for junior and senior high school students using active learning, and to examine the appropriateness, and to establish assessment methods to catch the change of morality. We develop morality materials based on Prenatal Diagnosis and Baby hatch, and examine the appropriateness as morality materials. We make reading materials using the wisdom of education and nursing, and conduct trial lessons for university students, and confirm the appropriateness of morality materials.

研究分野：教育学

 キーワード：道徳教育 道徳教材 考え、議論する道徳 問題解決的な学習 ディベート こうのとりのゆりかご
出生前診断

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2017年、中央教育審議会)が指摘したように、従来の道徳教育は「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導」になっているので、「考え、議論する道徳」への質的転換が必要である。小・中学校で道徳の時間が「特別の教科 道徳」になり、教科書が作成されたが、児童・生徒の思考力を鍛える道徳教材は、あまり含まれていない。そこで、現代的で論争的なテーマを取り上げ、道徳教材を開発し、評価方法を検討することとした。

2. 研究の目的

研究の目的は、アクティブ・ラーニングの方法を用いた道徳教材を開発し、中・高校生の道徳性の変容をとらえるための評価方法を確立することである。そのため、「出生前診断」と「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材を開発し、道徳教材としての適切性を検討した。また、模擬授業やディベートの視聴の前後における道徳性の変容を確認するために、「評価シート」を作成した。

3. 研究の方法

本研究では、生命の尊さを学ぶ道徳教材として「出生前診断」と「このとりのゆりかご」の読み物資料を作成した。教育学と看護学の知見を活用して、中・高校生向けの読み物資料を用いて模擬授業を実施し、その評価方法を検討した。

模擬授業は、A大学の教職科目「道徳教育論」「公民科指導法」「教職実践演習(中・高)」の授業の一環として行い、研究代表者が講師役を務めた。当該科目の受講者のうち研究の協力に同意の意思を示した研究対象者には、正規の授業としての聴講の中で、授業の評価に関する意見を回答してもらった。「評価シート」としてのアンケート調査用紙には研究者が作成した自記式質問紙を用いて回答を収集し、データとして採用した。データは、記述統計学的方法を用いて、調査用紙の自由記載内容を質的記述的に分析した。

4. 研究成果

「出生前診断」と「このとりのゆりかご」の読み物資料を作成し、研究対象者の大学生に対して模擬授業を実施した。アンケート調査の分析から、生命の尊さを学ぶ教材として適切であるという結果が得られた。これらの読み物資料は、中・高校で活用することができる。

評価方法については「評価シート」を作成したが、ディベートを実施する前後で、視聴者の考えが変容したことを確認できた。

具体的には、次の研究成果が得られた。

第1に、第91回日本道徳教育学会(文京学院大学)において、「道徳教材の適切性に関する検討「このとりのゆりかご」を用いて」という論題で口頭発表を行い、アンケート調査の結果を開示した。

「『生命の尊さを学ぶ』というねらいを達成できる教材でしたか」の質問については、全員が「はい」と答えていた。「『生命の尊さ』について深く考えることのできるものでしたか」については、1人を除いて「はい」と答えた。

「『自主、自律、自由と責任』について深く考えることができましたか」の質問については、71人中67人が、「この教材は、『家族愛、家庭生活の充実』について深く考えることができましたか」の質問については、66人が「はい」であった。

「この教材は、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものでしたか」の質問については、「はい」が58人、「いいえ」が4人、「どちらでもない」が8人、「無答」1人であった。

「この教材は、特定の見方や考え方に偏った取り扱いはなされていないものでしたか」の質問については、1人の「どちらでもない」を除いて、「はい」と答えていた。

中学3年生の教材として適切かという質問に対して、「はい」が57人であったが、別の質問で、各自が適切と思う学年を尋ねたところ中学3年生と答えたものは23人で、中学1・2年生を含めても39名であり、一貫していなかった。他方、高校生の教材とする回答は55人であった。

第2に、教職科目「道徳教育論」「教職実践演習(中・高)」で大学生を研究対象者として、「このとりのゆりかご」の模擬授業を実施し、アンケート調査に答えてもらった。

「このとりのゆりかご」のアンケート調査から、次の4点が確認された。

「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材は、内容項目のうち、中心とした「生命の尊さ」および「自主、自律、自由と責任」について深く考えることができる教材であると言える。

「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材については、「家族愛、家庭生活の充実」について考えることができる教材と認識されているものの、十分とは言えなかった。

「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材については、「人間としてよりよく生きる喜びや勇気」を与えられるものとしては不十分だと感じている。

「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材は、中学3年生の発達段階に照らして、適切な題材になり得ると思われた。

この研究成果は、名古屋経済大学人文科学論集第98号(題目「このとりのゆりかご」を題材にした道徳教材の開発と検討、21~37頁、平成31年3月20日)に発表した。

次に、「出生前診断」の模擬授業のアンケート調査から、次の4点が確認された。

「出生前診断」を題材にした道徳教材は、中学校学習指導要領の内容項目のうち、「生命の尊さ」を学ぶというねらいを達成できたと結論付けられる。

「出生前診断」を題材にした道徳教材を多面的・多角的に考えることについては、母親と胎児の立場になることで思考が広がると思われる。

「出生前診断」を題材にした道徳教材を学習することにより、将来の自分の問題として考えられることが確認された。

配当学年については、生徒の発達段階から高校3年生を対象に考えていたが、約8割が高校1年生以上に適した教材であると判断したことが確認された。

この研究成果は、関西福祉科学大学紀要第23号(2019)(題目「出生前診断」を題材にした道徳教材の開発と検討)、65～76頁、令和元年9月12日)に発表した。

第3に、「こうのとりのゆりかご」を教材にしたディベートを行い、以下の結論を得た。

ディベートを授業に取り入れることで、ディベーターは論題に対する肯定側、否定側の主張を展開することで個人間の対話を行い、視聴者はディベーターの主張を自分の考えと比較することで個人内対話をしてきた。研究対象者の内面では、「考え、議論する道徳」が実践できていることが明らかになった。

ディベートの視聴の前後に研究対象者の考えが変容したことから、思考が深まったと理解できる。研究対象者は主体的にディベートに取り組み、個人間対話や個人内対話を実践し、自分自身の学びを洗練していったと理解できる。本研究を通して、研究対象者に思考の変容があったことを確認できた。研究対象者は、「生命の尊さ」に関わる論題について、自分自身が納得できる解を主体的に選択し、考えを変容させていた。この思考のプロセスは「主体的」「対話的」で「深い」学びができていていることを示している。その際、ディベートの勝敗の判定に論理性が最も強く貢献した。

道徳教育の目標である道徳的判断力あるいは思考力を具体化する指導方法としてディベートが有用である。道徳教育の目標は、「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度などの道徳性」(小・中学校学習指導要領)を養うことである。ディベート授業は、この中の道徳的判断力を高めることができる。

この研究成果は、総合福祉科学研究第11号(2020)(題目「考え、議論する道徳」におけるディベートの有用性の検討)、51～64頁、令和元年12月27日)に発表した。

ディベートについては、小・中・高校の総合的な学習(探究)の時間が課題解決を軽視しているため、課題解決能力や思考力等を身に付けるために、ディベートを用いた探究的な学習を提案した。

この研究成果は、名古屋経済大学人文科学論集第99号(題目「総合的な学習(探究)の時間におけるディベートの活用」、13～30頁、令和2年3月20日)に発表した。

以上の論文の研究成果についてはインターネット上でオープンアクセスとなっており、誰でも見られるようになっている。

また、「こうのとりのゆりかご」と「出生前診断」の道徳教材としての適切性については、著書『教育課程の倫理的展開』(中部日本教育文化会、110～166頁、令和2年2月10日)の中に収録した。

研究成果の全体については、科研費報告書(68頁)としてまとめた。この報告書は、現職教員などを中心に配布した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 巻 99
2. 論文標題 総合的な学習(探究)の時間におけるディベートの活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学論集	6. 最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15040/00000387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 巻 11
2. 論文標題 「考え、議論する道徳」におけるディベートの有用性の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合福祉科学研究	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.24614/00002875	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 巻 23
2. 論文標題 「出生前診断」を題材にした道徳教材の開発と検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西福祉科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 65-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.24614/00002659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 巻 98号
2. 論文標題 「こうのとりのゆりかご」を題材にした道徳教材の開発と検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文科学論集	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15040/00000351	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 巻 22号
2. 論文標題 道徳教材としての二宮金次郎論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西福祉科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.24614/00002388	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤利明、石村由利子	4. 巻 97号
2. 論文標題 道徳教材としての「先人の伝記」の適切性と有用性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学論集	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15040/00000245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 伊藤利明・石村由利子
2. 発表標題 道徳教材の適切性に関する検討 「こうのとりのゆりかご」を用いて
3. 学会等名 第91回日本道徳教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤利明・石村由利子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中部日本教育文化会	5. 総ページ数 166
3. 書名 教育課程の倫理的展開	

1. 著者名 生野金三、香田健治、湯川雅紀、高木史人他9名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 189
3. 書名 幼稚園・小学校教育の理論と指導法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研費報告書「アクティブ・ラーニングを用いた道徳教材の開発と評価方法に関する研究」 2020年3月31日発行、68頁。
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石村 由利子 (Ishimura Yuriko) (70310612)	名古屋女子大学・健康科学部・教授 (33915)	